

第 32 回 高峰カンファレンスを開催しました

公益財団法人 第一三共生命科学研究振興財団

2016 年 3 月 11 日(金)、第 32 回 高峰カンファレンスを開催しました。
多くの大学、研究機関の研究者など、100 名の出席者を集め、会場は満席となりました。



会場の様子

当財団では毎年、生命科学研究の発展に寄与した研究者に対して、高峰記念第一三共賞を贈呈しています。

高峰カンファレンスは受賞者の業績を記念して開催され、学术交流の場を提供することで研究のさらなる振興と、若手研究者の育成を図ることを目的としています。

今回は「生体恒常性維持機構の破綻(ストレス)と疾患」という総合テーマのもと、記念講演とシンポジウムが行われました。



開催の辞を述べる中山理事長

記念講演では、日本医学会長 高久 史磨先生の座長の元、今年で 13 回目となった高峰記念第一三共賞を受賞された、東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室教授 一條 秀憲先生が登壇され、「細胞がストレスを感じる仕組みの解明から創薬へ」というテーマで記念講演をいただきました。

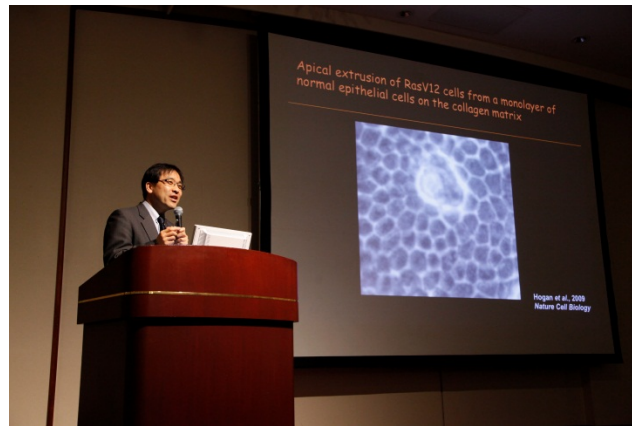


記念講演の座長を務められた日本医学会長 高久 史磨先生



第 13 回高峰記念第一三共賞を受賞された
東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室教授 一條 秀憲先生

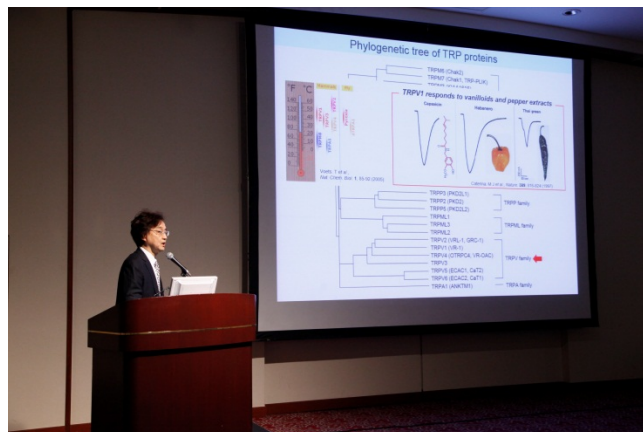
引き続き行われたシンポジウムでは、北海道大学遺伝子病制御研究所 分子腫瘍分野教授 藤田 恭之先生、東京大学大学院 薬学系研究科 蛋白質代謝学教室教授 村田 茂穂先生、京都大学大学院 地球環境学堂 環境適応生体システム論分野教授 森 泰生先生にご講演いただきました。



「正常上皮細胞と変異細胞間に生じる細胞競合—新規癌治療法の開発を目指して—」
 について講演された藤田先生



「プロテアソームの多様性と生体制御」について講演された村田先生



「TRP チャンネルの生理学: 生体の状態・環境変化に対する細胞の感知と適応における役割」について
 講演された森先生

以上

※ 高峰カンファレンスのプログラムは[こちらから](#)ご覧頂けます。